

## サマーキャンプ中学生の翼



佐藤さん(右から3人目)

2年3組 佐藤 唯夏  
『サマーキャンプを経て』

この研修で私が得たものは多くあります。特に私が感じたことは、自立すること、積極性や協調性を大切にすることです。初めて両親から離れてアメリカという知らない地で1週間過ごすというのは、とても緊張し大変なことでした。その中で自立することとは決して簡単ではなかったけれど、積極的にホストファミリーやグレンロックの方と話したり、同じ団員と協力し合ったりして目的を果たすことができました。

今回学んだこと、グレンロックの方々との時間を忘れずにこれからの生活に生かしていきたいと思っています。

今回の研修は、私にとってかけがえのない夢のような思い出となりました。将来の夢に最大限生かせるよう努力したいと思います。

団長(教育課指導主事)  
佐久間 敏晴

最初に、今年度の参加団員14人全員が元気に小野町に帰ってくるのができました。報告させていただきます。

26回目を迎える「サマーキャンプ中学生の翼」事業は、以前小野町で英語指導助手をされていたクリス

ティンさんとその夫のステイブンさんが中心となり、アメリカ合衆国ニュージャージー州グレンロック

町、さらには賛同する皆さんのご尽力により続けることができています。ホームステイを行いながら、消防署や警察署などの公共施設見学や老人福祉施設での入所者との交流活動、樹木園でのボランティア活動、さらには世界の中心都市であるニューヨーク市内見学をしてきました。

中学生という多感な時期にこのような体験をすることは、大変有意義なものであると思います。団員たちは、この研修を通して「チャレンジ精神」「コミュニケーション

ンをとろうとする態度」「自国や他国の文化を尊重する気持ち」「人間としてのつ

ながりや絆の大切さ」などができました。団員たちは、今後この学びを生かして、自己をさらに成長させるとともに、小野中の生徒や町の人々に言葉や行動で伝えていってほしい旨を話しました。

最後になりましたが、この14人の団員たちの中から、将来、国際的に活躍する人が出てくることを大いに期待しまして、研修の報告とさせていただきます。



佐久間団長(左から2人目)と西牧指導員(右端)

指導員(教育課副課長)  
西牧 泰弘

平成4年度に始まった「サマーキャンプ中学生の翼」事業は今年で26回目を迎えました。開始当時アメリカとの通信手段は電話とファックスで、時差を考えながらの連絡でしたが、現在はインターネットとスマートフォンで瞬時に連絡が取れるようになりました。私が前回訪れた20年前とは、通信手段こそ変わりましたが、グレンロックの皆さんは昔と変わらない優しさとおたたかさで私たちを迎え入れてくださいました。本当に感謝しています。

これまで延べ408人の団員がグレンロックを訪れ、さまざまな体験をし、見識を深めてきました。今年の団員も言葉の壁文化の違い、生活習慣の違いにとまどいながらも努力し、ホストファミリーと心を通わせることができ、涙を流し別れを惜しんでいました。このことからこの1週間の成果をうかがい知ることができました。みんな大きな成果を上げ、経験が自信に変わったと思います。「言葉は違っても、心は通じる」という感想を聞き、引率した私自身も彼らに成長させてもらったと感じました。これからの経験誇りに団員の皆さんが活躍してくれることを願っています。

## グレンロック町って どんなところ？

アメリカ合衆国ニュージャージー州グレンロック町は、町の面積が6.75km<sup>2</sup>(小野町の約18分の1)で人口は約11,000人の比較的小さな町です。

ニューヨーク市から35km離れた場所に位置するため、ニューヨーク市で仕事をする方々のペットタウン的存在となっています。

町は小さいですが自然あふれる落ち着いた住宅街です。

また町にはいくつかの公園や樹木園があり、アウトドアを楽しむ住民で活気に満ち溢れています。

町の中央には、氷河によって運ばれてきたという巨大な岩があり、町のシンボルとなっています。

